



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

年間第2主日 B年(2024年1月14日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：サムエル記上 3章 3b — 10、19節

第二朗読：コリントの信徒への手紙一 6章 13c — 15a、17 — 20節

福音朗読：ヨハネによる福音書 1章 35 — 42節

## 証し

三つの朗読から

年間第2主日は、<sup>でんとうてき</sup>伝統的に『ヨハネによる福音書』の箇所が読まれます。A年は「この方こそ神の子であると証ししたのである」と洗礼者ヨハネが語り、B年でも洗礼者ヨハネが「見よ、神の<sup>こひつじ</sup>小羊だ」と証します。そしてC年では「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしなさい」とカナの婚礼の席でマリアさまは命じながら、証します。

ですので、年間第2主日はヨルダン川で洗礼をお受けになられた「神から愛された神の子イエス」が、さらにどういった方であるかを他の人々の証言(証し)から明らかにする意図があります。さらに、そのイエスとの<sup>まじ</sup>交わりの様子も証言(証し)されます。今日は、「証し」の主日ともいえるでしょう。

第一朗読の<sup>ぼうとう</sup>冒頭、「サムエルは……主の神殿に寝ていた」(3節b)は印象深いです。神殿に横たわっていた少年サムエルは神とともにあった。それは、<sup>ほんらい</sup>本来自分がいるべき、あるべき場所、<sup>じょうたい</sup>状態だったのです。しかし、サムエルはそのことに気がつきません。

第二朗読には「あなたがたは、自分の体がキリストの体の一部だとは知らないのか」(15節a)と、パウロは問いかけています。わたしたちは、キリストと一つ。それが、本来自分がいるべき、あるべき姿、状態です。しかし、その大切なことに気がつきません。

福音朗読で「どこに泊まっておられるのですか」(38節)とイエスさまに聞きます。これは、

単<sup>たん</sup>にイエスの宿泊場所<sup>たず</sup>を尋ねることではなく、本来自分がいるべき、あるべき姿、状態<sup>きが</sup>を捜<sup>もと</sup>し求める人間の根本<sup>こんぽんてき</sup>的な問いかけではないでしょうか。

### 【ひとこと】

人間は、本来の自分の姿を知りません。自分がいるべき場所が分かりません。

第一朗読でサムエルは、神殿に横たわっていても、それが自分がいるべき場所であると気がつきませんでした。第二朗読ではパウロが、あなた方の体がキリストの体の一部であると語っても、わたしたちにはピンときません。福音の言葉、「どこに泊っておられるのですか」(直訳すると「どこにとどまっておられるのですか」という問いかけは、居場所<sup>いばしょ</sup>を失った人間<sup>はつ</sup>が発する根本的な問いかけです。

イエスさまの答えは「来なさい、そうすれば分かる(見る)」でした。弟子たちが見たのは、イエスさまが「つながり、とどまっている」場所です。つまり、御父<sup>おんちち</sup>との交わりの中につながって、とどまっているイエスの本来の姿です。彼らはそこに一緒に「泊まる」、「とどまる」のです。こうして、二人はイエスがどういう方であるかを体験しました。ですので、福音書の39節は印象的な一節となります。

ところで「そこで、彼らについて行って」とあります。「ついて行って」はギリシア語の動詞、時制<sup>じせい</sup>はアオリスト形となります。これには継続<sup>けいぞく</sup>の意味がありますから、この箇所は「ずーっと、ついて行きつづける」のニュアンスとなるでしょう。

## 信者総会のお知らせ

1月21日(日)

年間第3主日

ミサ時間：7時(修道院のミサ)、9時半

●9時半のミサ後に信者総会、新年の集い、新成人お祝い。

お茶とケーキを用意しています。

●この日は、8時半のミサはありません。

## 葬儀のお知らせ

兄弟・ヴァアンネ・南雲正晴神父さまの葬儀は1月17日 午後1時半からです。